

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 4月 2日

**【評価実施概要】**

事業所番号	0177500147		
法人名	有限会社 やすらぎ		
事業所名	グループホーム コスモス		
所在地	滝川市屯田町西1丁目2番8号 (電話) 0125-23-1200		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月31日	評価確定日	平成22年5月24日

【情報提供票より】 (平成22年3月15日事業所記入)

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成 22年 2月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤 5人, 非常勤 21人, 常勤換算	15.4人

**(2) 建物概要**

建物構造	木造合金メッキ鋼板ぶき 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費	4,500 円
			暖房費(9～4月)	12,000円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

**(4) 利用者の概要 ( 3月 15日現在 )**

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85,6 歳	最低	61 歳	最高	96 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	滝川市立病院、江部乙ファミリークリニック、みやこし歯科診療所
---------	--------------------------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

このホームは、以前から経営の二つのグループホームを統合し、市街地に新設されたもので、運営者の豊かな経験が随所に活かされ、利用者本位のホームとなっています。特に防火対策では内部壁面を二重の耐火ボードを使用し、スプリンクラーの設置、避難に際しての階段の配慮など幾多の配慮が見られます。また、このホームのモットーとして「できること、できそうなこと」への果敢な挑戦が日常的に行なわれ成果を上げています。1階の廊下には取りはずしが可能な手摺りが設置され、利用者の歩行訓練が行なわれています。介護度5の車椅子を常時使用の利用者が、この歩行訓練により、立ち、少し歩行が可能になったことが運営者並びに職員全ての自信に繋がったものと思慮します。

**【重点項目への取組状況】**

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題は9項目でしたが、「地域密着型の理念への考察」など5項目の改善が見られます。また、新しい地域での取り組みが必要な課題についても、既に着手もしくは検討が加えられており、これらの改善に期待します。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回は移設の最中での評価のため、全ての職員参加には至っていませんが、今後は日頃のサービスを振り返る絶好の機会と認識して、職員全員が参加しての自己評価となるよう期待します。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 新しい地域での運営推進会議で、メンバーの選出、家族との絆、また地域との交流など、豊富な題材を盛り込んだ会議が期待されます。また、評価での改善に向けた取り組みを「目標達成計画書」に基づき会議での公表と進捗状況へのモニター役を担っていただく取り組みが望まれます。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問頻度が高く、訪問時を利用した家族の意見や要望、苦情を聴取し、運営全般の改善に向けた取り組みが行なわれています。運営者、職員はどんなことでも話し合えるホームの雰囲気を大切にしながら、家族との絆を強固なものとするべく日々努力しています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営者は、キャラバンメートとして地域での普及に熱心な取り組みを行なっていますが、新設されたホームでも地域に根ざした活動が予定されています。ホームの周辺整備と相まって、利用者職員によるラジオ体操に周辺住民、子供達の参加を呼び掛けるなど、地域が一体となった行事も検討されており、今後の活動と成果に大きな期待が寄せられています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回評価での課題であった運営理念は、「地域と共存共生し、その人らしく生きる支援」が理念に挿入されるなど独自に作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新しい理念は、パンフレットに大きく描かれており、管理者は勉強会や日常の業務の中で理念に基づく介護の精神を周知し共有を図っています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの移転後、すぐに町内会に加入しましたが、一月半と日が経っていないため、具体的な交流には至っていません。	○	運営者は、地域とのつきあいをより高めるため、雪解けを待って行なわれる色々な方策が検討されています。新興住宅地にあつて、会館のない町内会の会合には、ホームの相談室を開放して使用していただくなど、地元の方々との交流がこれから始まりますが、それら取り組みに大きな期待をいたします。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価の作成に当たっては、ホームの移転作業に追われ、施設長、管理者、介護主任の三者で作られています。評価の意義と理解は十分に理解されていますが、全ての職員のサービスの振り返りには至っていません。	○	今回の特殊な実情は理解できるものの、今後には職員全員が日頃のサービスの提供を振り返る良い機会と認識し、評価に携わるよう期待します。また、課題への取り組みについては、目標達成計画書に基づき運営推進会議に公表しながら、解決に向けた実践が行なわれるよう期待します。

滝川市 グループホーム コスモス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	移転に伴い、新たなメンバーの委嘱が行なわれることとなりますが、従来行なわれてきたメンバーの数、定期的な開催には十分配慮が必要と思慮します。	○	新しい地域での理解を得るため、地域および家族の方々に多くの出席を求めるなど、柔軟な会議の運営が求められます。メンバーからの斬新なアイデアも聞きながら、地域に根付いた会議となるよう望まれます。また、評価への取り組みを公表して進捗状況へのモニター役を担っていただく取り組みを期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は、市の協議会の会議に出席して情報の交換を行なうほか、支庁管内、北海道のグループホーム協会のそれぞれの役員をしており、その都度、道、市の担当者との行き来を通して連携が図られています。また、キャラバンメートの活動では、企画し実践するなど市の福祉対策の一翼を担う活躍が特記されます。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問頻度が高く、訪問時を利用した利用者の状況報告が行なわれています。職員は担当する利用者の日常の様子を「便り」として、毎月の金銭報告などと共に家族のもとへ送られています。会報も今月から新しく作られ、利用者のホームでの暮らしの状況などが報告されることになっています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時を利用した意見や要望、苦情などを聴取できる雰囲気づくりに努めています。家族も新しい環境の中で、どのようなサービスの展開があるのか期待を持って見守っています。聴取された家族の意見要望などが的確に伝わり、ホームの運営に反映されるよう期待します。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者全体の馴染みを得るため、職員はユニット毎で定期的な異動を実施しています。特に以前の二つのグループホームの利用者が一緒になるなど、環境の変化には十分な気配りが行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者が講師となって内部の勉強会が開催されるほか、外部研修の情報を伝えながら、職員の自主的な受講を促しています。しかし前回の評価でも課題となった、職員の段階、スキルなどが勘案された計画的な受講の体制が十分ではありません。	○	職員の中には、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得に対する意欲も盛んですが、職員全般にわたる段階的な研修によるスキルアップが計画的に行なわれるよう期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の交換研修によるサービスの質の向上が図られており、他の同業者とネットワークを築きながら、ホーム訪問が行なわれています。職員はこの訪問を通して、自らのサービス提供に大きな影響があると思慮します。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や職員の気配りにより、殆どどの利用者は新しいホームの暮らしに馴染んでいます。運営者は雪解けを待ってホーム周辺の整備と環境づくりにより、一層利用者との馴染みが広がるよう検討しています。また、利用者ばかりでなく家族ぐるみの馴染みも考慮されています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしの中で、利用者、職員は共に楽しみや哀しみを共有し、共に支えあう関係を構築しています。利用者のこれまでに過ごしてきた生活歴、また、家族からの情報をもとに暮らしの幅が広がるよう支援が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情などから利用者の思いの把握に努めています。表出しづらい利用者の方は、家族等の意見や生活歴などの情報を参考にして把握するようにしています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が望むこと、家族が望むことを基本として介護計画が作られています。心臓救命装置の評価及びアクティビティに対するアセスメント及びモニタリングが日常的に行なわれて、介護目標に沿った記録が記されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは、短期が1ヵ月、3ヵ月とし、長期は6ヵ月、1年として具体的な見直しが行なわれ、家族も共有し理解されています。また、状況の変化に対応した計画の見直しは随時行なわれ、家族、医師なども加わって作成される場合もあります。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本来、家族がなすべき事項であっても、家族の状況により職員が替わって通院介助や送迎、買物など柔軟なサービス提供が行なわれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームが新設されましたが、かかりつけ医への受診支援が継続して行なわれています。ホームの協力医とも連携を密にしながら、利用者の健康維持を支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた医師と家族との話し合いが円滑に行くよう支援が行なわれていますが、ホームとしての方針が作成されていない現状で、職員間の共有に至っていません。	○	終末期支援に関する覚書が家族とホームの間で交わされていますが、ホームの方針を早急に作成すると共に、出来るだけ早期に関係者間の話し合いの機会を作り、方針の統一を図ることが重要と思われ取り組みに期待します。また、状況の変化に応じた繰り返しの話し合いが持たれ、段階的な合意も必要です。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b> (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	前回の取り組み課題の利用者の個人情報の取り扱いは、予め必要最小限の範囲を定めて家族等の承諾書をいただいています。職員は利用者の尊厳を最大限に配慮しながら、誇りやプライバシー確保に努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはありますが、時間を区切るなどせず、暮らしの流れは利用者がつくるものと考え、利用者のライフスタイルを大切にした希望に沿った暮らしへの支援をしています。		

滝川市 グループホーム コスモス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームでは、食事の時間が利用者にとって、より楽しいひと時になるよう配慮しています。昼食のみ食材を業者から調達していますが、朝と夜の食事は職員が献立して提供されています。利用者の好みを取り入れる工夫をして、楽しめるよう支援しています。利用者の状態に合わせた作業と一緒に手伝っていただいています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はストレス解消や安眠の効果を期待して、最低週2回の入浴支援をしています。「入りたい時に入る」が原則で、体調によっては毎日、また夜間寝る前の入浴も可能として支援が継続されています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雪深い冬季間は、ホーム内でのゲーム、麻雀、テレビ観賞、塗り絵などで楽しみます。雪解けを待って外に出る機会も散歩やドライブ、菜園作業と増加します。新しいホームでは周辺の整備と相まって、花壇や野菜畑の作業に利用者と職員の夢は膨らみます。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	従来日常的に行なわれてきた散歩や買物は、新設の地域で新たなコースが作られます。ホーム周辺を利用した菜園での作業や季節毎の行事も検討されています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	このホームでは、鍵をかけないケアが実践されています。玄関も夜間以外は常時開放され、気軽な訪問や見学をしていただいています。ユニット間も自由に行き来が出来るなど開放感に満ちています。		

滝川市 グループホーム コスモス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	新設のホームは、二重の耐火ボードを廊下など壁面使用、スプリンクラー、耐火カーテンなど設備が整備されています。避難訓練は、去年は回数的に不足していましたが、新設のホームでは、災害時の避難想定我自衛消防団が作られ、住民の方々も加わるなど、地域ぐるみの対応が進められています。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に適応した栄養のバランスを考慮した支援が行なわれています。刻み食、ミキサー食なども色合いを壊さない配慮がされています。時折り塩分の検査やカロリーバランスも検討されています。水分は、お茶やコーヒーが加わった適正な摂取が行なわれています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい窓際に配置された食堂やリビング、クッションフロアで足元が快適な脱衣室、浴室入口に設えた違和感の無いドアの工夫、足腰の訓練も考慮された階段の工夫など、随所に利用者本位のアイデアが見られます。管理者は利用者が少しでも楽しく暮らせる空間作りに配慮して、生活感や季節感など取り入れながら、居心地の良い工夫をしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットによって畳の部屋の用意がされています。利用者が馴染んだ寝具や家具、食器などが持ち込まれ、その人らしい安心と心地よい暮らしが出来るよう環境作りがされています。		

※  は、重点項目。